

大宮 精機



押出機 EXTRUDER

○本社所在地：静岡県富士宮市
 ○事業概要：電線・医療用チューブ等の
 押出成形ラインの設計・製造
 ○常時使用する従業員：76名
 （グループ全体・2026年4月時点）
 ○現在の売上高：24億円
 （グループ全体・2026年4月期）
 ○法人番号：4080101025100
 ○Web：
<https://www.ohmiya-seiki.co.jp/>

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
金子 建太郎

世界の「モノづくり」を、足元から支える。

当社（グループ）は、電線及び医療用ワイヤー等の製造設備のリーディングカンパニーとして、国内外の広範囲な産業分野で「モノづくり」を足元から支えてまいりました。最近では、AI・DC、エネルギーインフラ、先端医療（低侵襲）などの分野での技術発展とニーズ拡大に伴い、当社の産業用機械に対する期待と要求はかつてないほど高まっています。この市場の追い風を確実につかみ、企業として、グローバルに活躍・持続的な成長・強固な経営基盤の確立をするため、私はここに「売上高100億円の達成」を強く宣言いたします。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2036年に売上高100億円を達成（年平均約15%成長）
 ・ 2026年 24億円 （2026年4月期実績）
 ・ 2029年 28億円 新工場 稼働開始
 ・ 2032年 68億円 新工場フル稼働・M&Aによるグループ化
 ・ 2036年 100億円 目標達成

課題

- 生産能力
開発・試運転スペースが不足し、納期12か月。受注台数が頭打ち
- 事業基盤
約20年前の基幹システム。手作業依存で規模拡大に耐えない
- 産業構造
同業・サプライヤーの後継者問題による廃業懸念

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- 生産能力
開発・試運転棟と出荷施設を新設し、納期を6か月へ短縮
- 事業基盤
基幹システムをAI・DXで刷新。営業人員を2030年に3倍へ
- 産業構造
M&Aで技術と雇用を承継し、束ね役として業界再編を主導

実施体制

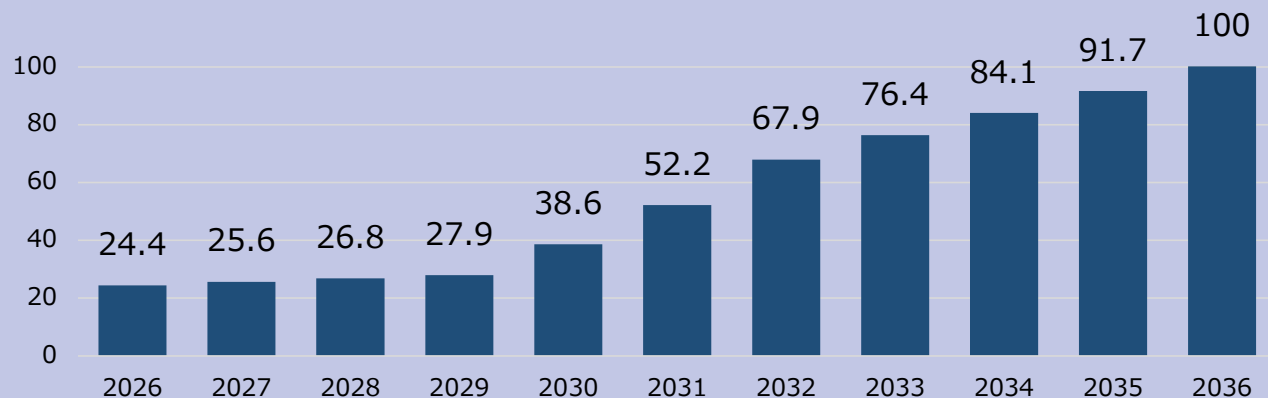
- 生産能力
社長直轄プロジェクトチームが投資計画の策定と新工場の建設を統括
- 事業基盤
外部専門家と連携しシステム刷新。営業部・製造部が海外展開
- 産業構造
HDが金融機関等と連携しM&Aを選定・実行
※HDが投資判断と資本政策、大宮精機を中核企業として事業運営

※本宣言は企業自身がその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

売上高100億円実現までの道筋

2026年4月期のグループ売上高24億円を起点に、4つの成長エンジンを積み上げ、2036年の売上高100億円達成を目指す。
機械（新造ライン）の販売がそのまま部品・消耗品のストック収益を生む二階建ての収益構造に、新工場による供給能力の拡大とM&Aによる非連続の成長を重ねる。

グループ売上高の推移（億円）

100億
達成

【企業グループ構成】

大宮精機ホールディングス株式会社
グループの投資判断・資本政策大宮精機株式会社
中核企業（設計・製造・販売）

【4つの成長エンジン】

機械（新造ライン）＝フロー収益

新工場で開発・試運転スペースを確保し、納期を12か月から6か月へ。受注台数の増加と、需要が高まる大型機への対応による単価上昇で拡大

部品・消耗品＝ストック収益

納入した設備には消耗品・補修部品が継続的に発生。納入累計が増えるほど積み上がり、機械本体に比べて収益性の高い安定収益基盤となる

医療・先端分野

低侵襲治療の広がりを背景に、医療用チューブ・ガイドワイヤー焼成装置が伸長。さらに電線被覆の技術を応用し、モーター用マグネットワイヤーなど新分野へ展開

M&Aによるグループ化＝非連続の成長

後継者問題を抱える同業に加え、押出ラインを構成する機械の調達先を取り込み内製化。技術と雇用を承継